

ファンからのメッセージ



東日本大震災から五年が経ちました。現在も四〜十二月まで月一回のペースで仮設住宅の慰問を継続しています。

市民力かわら版に掲載されてから、それぞ

れのボランティアを募るたび、有志が集まり、人のつながりによって輪が広がりました。人と人をつなげる「市民力」ってありがたいなと思っています。かわら版、ありがとうございます。ボランティアグループ 風車 渡辺 英子さん

銀行の女子行員には、矢板の方もいるので、記事を見て驚いていました。記事になることを誰にも言っていなかったのに、得意先の方々も記事を読んでくれていて、話題になりました。

私は、矢板市のことを深く考えており、閉まつているお店のシャッターがさびれていて暗いので、児童や学生さんかと思いません。足利銀行 支店長 海老沢 智さん

「市民力かわら版」が発行中止になると聞き、寂しさでいっぱいです。発行される度に担当者が持参くださり、大学のロビーに配架してあります。毎回、矢板の身近な情報が満載で、新たな発見もたくさんあり、矢板市外に在住の方も楽しそうにご覧になつ

ております。また、当校の学生や卒業生が、紙面上で活動を紹介したこともありました。編集者の皆様には感謝申し上げます。素敵な「かわら版」をありがとうございます。シルバー大学校北校

かわら版に掲載いただいた後、朝日新聞の栃木版にも取材いただきました。新聞に載ったこともあり十件の問い合わせと六名の見学者が来てくださいました。地域の方からも注目いただき、コミュニ

ケーションも広まったと思います。かわら版のように、地域の情報誌として、隠れた情報を収集し、全域に広める役割は大変なものだと感じています。矢板 利一さん

「市民力かわら版」を楽しみに読んでいます。市内でいろいろな活動をしている方のご紹介の記事は、初めて知ることも多く、インタビュー形式の文章はとてもわかりやすく読みやすいです。また、各地区での行事やスポーツチーム、サークル活動の紹介もそれぞれの活動内容がわかり、積極的に活動されているみなさんのパワーが感じられます。「岡目八目」は特に興

味深く、市外から来て、矢板市で職に就いている方の「矢板市の印象」や「矢板市で気に入っている場所」など、長年市内に住んでいる私たちとはまた別の視点で見てくださっていることに驚きます。今後の矢板市のためにも、このように矢板の素敵なところも市民力として発信していければいいですね。石川 智子さん

かわら版の魅力は、やはり読みやすいところかな。温かみがあるんだよね。それと、市民の目線に立った記事がとてもよい。矢板はイマイチと思っていたが、どうしてどころがいっぱいあるん

だね。それに頑張っている市民もたくさんいるし、こんなところをかわら版で教えてもらって、矢板が好きになってきたよ。今後も、この矢板の情報をしっかりと発信し続けてもらいたいね。65歳 男性

一時、かわら版に席を置いた者として、毎回楽しみに読ませていただいております。矢板の町並も変わりつつあります。そのような中で、時折折々の行事、時の人を市民に発信していただき、元気をいただいております。また、内容的

にも読みやすく、明るく努力のたまものと感じております。しかし、市民力が発揮されたかわら版がなくなってしまうことは、寂しくなりますが、長い間編集をしてくださった皆様のご苦勞に心より感謝申し上げます。白石 京子さん

私たち八戸の農家は、平野（兵庫畑）で、十四年前から棚田オーナー制度を取り入れ、農業体験を通して都市の人たちと交流しています。また、四年前より、市民力かわら版編集委員の皆さんのご協力をいただき、棚田の写真コンテストを行いました。

市民力かわら版が今回で最終号と聞き、残念に思いますが、長い間の編集委員の皆さんのご努力に感謝をいたします。そして、この棚田の写真コンテストも終了しました。ありがとうございます。兵庫畑棚田を守る会 代表 野瀧 勝さん

私のとりとめのない話をよくまとめてくれていて、さすがだなと思います。「かわら版読みましたよ」「記事載っていましたね」などと、皆さんの声から声を掛けていただきました。案外多くの方がかわら版を読んでくださる

のです。矢板にはよいところやものがたくさんあるので、外に向けてもPRしてほしいと思っております。ボールセンター誘致ができてよかったです。矢板発展の糸口となることを願っています。53歳 女性